

編集手帳

かつて、ベルギーは中立を宣言し、外交で平和を維持できると考えた。他国の「善意」に依拠したのだ。結果、2度の世界大戦でドイツの侵略を許した。戦後、ベルギーはこれを教訓に、集団的自衛権行使に重きを置く自国防衛に転じた◆国際政治学者の細谷雄一氏の論文に詳しい。「1%でも善意に頼れない国があれば、私たちの安全は破壊される」と、細谷氏は小紙で語っている◆70年前の8月、日本も同様の経験をした。ソ連の満州（現中国東北部）などへの侵攻だ。中立条約を守る

という善意がソ連になく、多くの日本人が犠牲になった◆今、安全保障関連法案に対し、「中国や北朝鮮が日本を攻撃するはずがない」との批判がある。両国にも善意が通じる人は少なからずいようが、北朝鮮独裁政治の動向は予測困難だ。戦闘機を自衛隊機に異常接近させた中国軍人もいる◆「地獄は善意の敷石で敷き詰められている」。欧州のことわざで、『世界ことわざ大事典』には「悪人の中には善意の行為を主張するやからが多い」との解説もある。確率1%でも悪意への備えを怠らないことが、安全保障の肝である。